

[ 日本の新しいマスタープランに向けた試論 ]

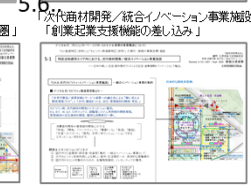
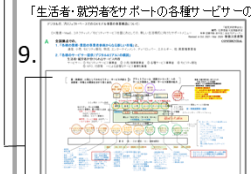
組立て試論 一事業化編

事業化への進め方例  
(既準備の50事業例より抜粋)

「新しい生活 都市様式へのプラットフォーム」



「医療・介護 子育て・教育」他を横断のまちなみ拠点



地域から始める面におとしてのDX事業の青焼き

具体的な稼働事業へ。地域(自治体、民間他)からの青焼きとして実施。

防災・減災・危機管理、健康・スポーツ、医療・介護、こども・子育て、社会福祉、生活安全、科学技術、教育・文化、都市・土木開発

- 『DX推進—「新しい生活 都市様式へのプラットフォーム」』
- 『DX推進—コネクティッド・サービス/MaaSによる、生活者が必要とするコンパクトなサービスモールを、街なかの主要拠点(商業施設、鉄道駅、道の駅等)に併設。』
- 『DX推進—特区法制適用エリア内における、生活者・顧客へのAI自動配送システム及びUAM(ドローン、空飛ぶクルマ)の稼働』 ※ Urban Air Mobility
- 『特区法制適用エリア内における、次代商材開発/統合イノベーション事業施設』
- 『特区法制適用エリア内における、創業起業支援機能の進い込み』
- 『DX推進—モビリティとAI自動配送に接続の、スマート 住宅群とSDGs社会基盤施設の構築』
- 『特区法制適用エリア内における、脱炭素イノベーション/地域循環共生圏構築』
- 『DX推進—生活者へのモビリティ・サービス・コミュニティ接続の、医療施設、介護・高齢者生活支援施設、子育て支援・保育施設、文化・教育施設の設置・運営』
- 『DX推進—MaaS、コネクティッド/モビリティサービスを面におとしての、新しい生活様式に向けたサポートメニュー』
- 『DX推進—AI・自動配送技術導入のマルチモダリティ「モビリティ・マネジメント & エコシステム」』
- 『新しい生活 都市様式づくり』
- 『DXによる新産業づくり/DXによる消費牽引づくり』

都市部での青焼き

- 『統合&DXイノベーション』 アクノム構想図
- 『統合&DXイノベーション』 事業の構造と運営計画
- 『フィナンシャルセンター』
- 『日本から世界へ発信』
- 『統合&DXイノベーション×国際会議の牽引』
- 『DXプロジェクトとしてのMICE開発』 施設の構成
- 『デジタル庁—東京都乗り入れによるプロジェクト計画』 アクノム図

地域・都市部での青焼き

- 『統合イノベーション』『地方創生』『DXイノベーション』の合流による、地域から始める新しい市場
- 同 施設構成
- 『統合イノベーション』『DXイノベーション』による商材開発 アクノム図
- 同 商材開発の詳細
- 『地方創生としてのDX利用によるラストワンマイル戦略の事業構築』 モデル事業:



**手順:**  
デジタル政策が、長くつられていない「日本の新しいマスタープラン」づくりに継がるとして、

- ① 地域から始め、地域の主体者(住民、自治体、事業者)の“皆が行動したくない”、かつ“何をすればかなえられるのか”についてのシナリオを組み込んでいく。
- ② 本当の意味での「新しい資本主義」づくりの骨格をしっかりと作り、その上で、
- ③ これまでの国策(「e-Japan」「テレビア」「テクノポリス」「インテリジェントシティ」他)が道半ばとなったこと反省より、成功化へ必要となる条件を設定。
- ④ 最も効果のある具体的かつ代表的なプロジェクトを立てを行う。  
—具体例: 6つの事業集約と25の事業の青焼き

具体的な組み立てへ

— デジタル技術、次代技術利用が可能させる具体的な組み立てへ—

- 「個」—「地域・社会」—「公共」—「地域市場」のベストな関係開発の内容を明示。  
— “自己実現のためのツール・社会資本”としてのデジタル活用。/山際大臣
- 「これまでの「地域の制度をベースとしての市場」とは異なる、地域ごとって真に必要な「新しい地域理念」からなる、「生活者・就労者のアクティビティをベースとしての新しい市場(社会域)づくりへの構造化と実現。」
- 「縦方向、横方向、垂直方向の3層の社会軸からなる社会域の構造化と、生活者・就労者へのサポート内容、及び提供するサービス(地域のあらゆる事業者たち)の位置づけ。」
- 「関係機関からのイニシアティブ提出による、地域への民間投資の呼び込みと消費牽引。[マーケティング開発—生産—流通—販売]の機能を—ディング・カンパニーがサポート。」
- 地域の生産者・製造者、小売、物流、さまざまなサービス事業者たちの「再興に向けた集積拠点化とサポート内容(起業・創業他)」と生産数値(F/S)を明示。

アプローチ条件

“分かりやすい話(ノウハウ)と構造が主体者の成長への夢をつくる。”

- ① 新しい市場の構造と内容(生産の規模)へ落とし込みができる。
- ② 利用するデジタル・次代技術、サービス内容、生産数値が明示できる。
- ③ 全てのデジタル戦略は、「人」のアクティビティをサポートすることにある。
- ④ 人のアクティビティは面(床)でのサポートが柱であり、どんなに難しいデジタル戦略も床上で表現することができ、初めてその人に伝え、提供することができる。

「新しい資本主義」より新しい「日本のマスタープラン」づくりに向けて:

**条件:**  
デジタル政策は、「新たな成長へのプロセス、計画のあり方」を可能とさせる。  
主体者(個・国民)間の成長を及ぼす基本的な構造が欲しい。一成長ができる構造

“生き延び成長する”ための、新しい地域理念とアクティビティ理念からなる主体者間連携への関係開発の内容(プログラム)をつくる。

「新しい資本主義」、「デジタル政策」、「田園都市構想」実現への必要となるアプローチについて:

— 新しい豊かさを感じる「私」(生活者・就労者) =

【主体者が持つ新しい生産テーマ 構造】は、

計画的姿勢として、  
① 個と社会・公共とのベストな関係開発サポート  
② 個の自己実現サポート → デジタル政策で実現をめざす。

【自治のあり方、国のあり方と同じ手続の構造】によるのではない。

- ① 地域の自律と社会域の関係開発
- ② 個のアクティビティを促した特化する社会域づくり

**大きな方向性:**  
成長していくためのマネジメントのあり方として、  
(1) 新しい構造を有する地域理念へ  
(2) 新しい資本・制度資産からなる地域から社会へ  
(3) 社会域の運りとしての社会軸へ  
(4) 社会軸としての地域へ、国際へ

既「日本のマスタープラン」より新しい「日本のマスタープラン」づくりに向けて: